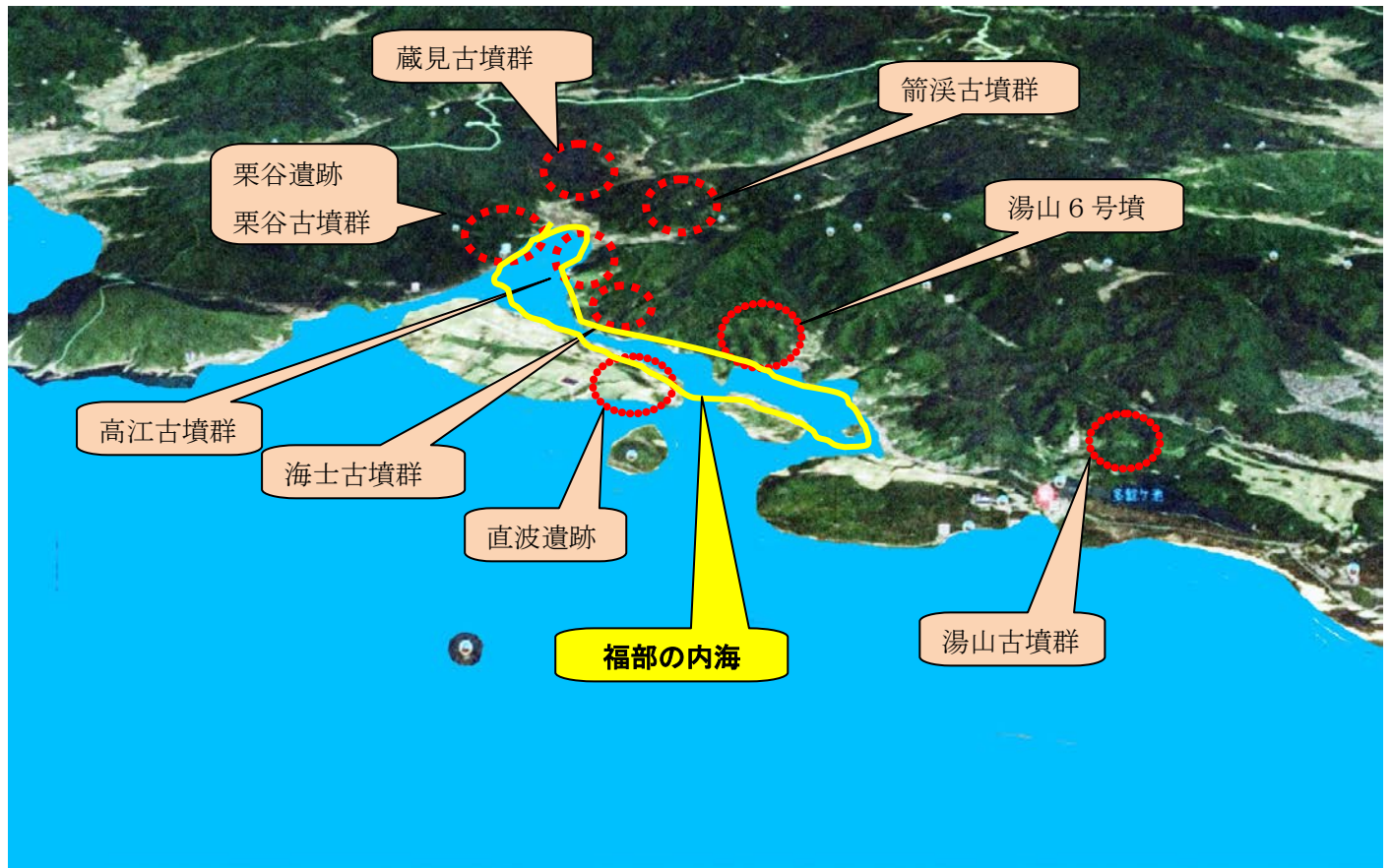


## 古墳・遺跡から読み解く「縄文時代の福部」

石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 飛鳥時代 奈良時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代 江戸時代 明治時代 大正時代

5500年前に人が住み始め内海の豊かな環境で3500年間続く居住の地、弥生・古墳時代の遺跡



鳥取県西部には「日南町、岸本町、大山町」など6000年前以上の縄文遺跡があるが、東部では福部の<sup>すくなみ</sup>直波遺跡や栗谷遺跡が5500年前以上と最も古く、因幡地方の先住民の発祥の地であり、文化形成の先進的な存在だったのではと思われる。

約2万年前から始まったとされる「海面が高くなった縄文海進も、2000年前～3000年前の弥生末期から古墳時代には弥生海退が進んで、海面は低く海面は今より3m高い状態」までなったとされる。

5000年前福部の海岸は、一部が島の周辺に砂州\*<sup>1</sup>が出来始めたとされるが、まだまだ海が広がっている状態であったようである。

その後の浜湯山集落の田んぼのボーリング調査で、地下10～12mで貝化石が発見され、当時は海であったことが証明されている。

この地を居住地として選んだのも、波静かな内海からとれる水産物や砂丘から野生の動物を捕獲し、生活するには恵まれた環境であったのだろう。

福部の内海を囲むように残る遺跡は40～50数基存在しており、縄文時代に続く弥生時代・古墳時代と3500年以上もの長期間居住の地となっていたことがうかがえる。




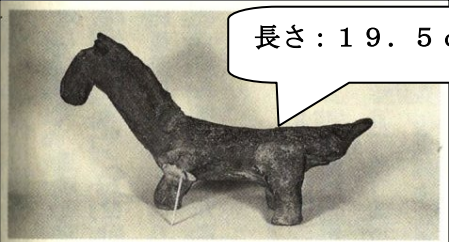
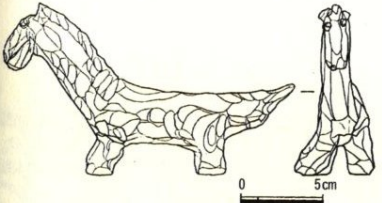
そのことを物語るように内海の周辺には、縄文中期時代・弥生時代・古墳時代に渡り数多くの古墳や遺跡が発見されている。

弥生時代になると、稲作りが行われるようになり人々の生活の場は大きく広がっていった。

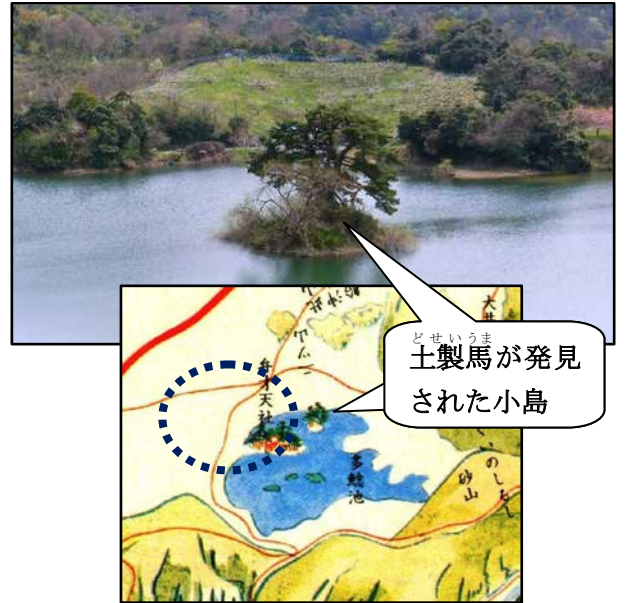
しかし縄文時代の先進地であったふくべも内海というその地理的環境が稲作りに適さなかったためか、他地域に見られるような大規模な集落の発生は見られなかったようである。

\* 1 砂州 浅い海岸に潮流や風で運ばれた土砂がたまってできる砂の堤



<p>栗谷遺跡</p>	<p>約2500年前 古墳時代中期</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に木製杓子<sup>しゃくし</sup>は全国的にも類例が少ないことから「国指定の文化財」に平成6年に指定されました。</li> <li>・古代文字が岩に刻まれている。</li> <li>・豊国文字*<sup>2</sup>の類とされるが解読出来ていない。</li> </ul> <p>* 2 豊国文字 神代文字の一種で、漢字伝来以前に古代日本で使用されたとされた文字</p>	 <p>栗谷遺跡出土の縄文時代の木製杓子</p>  <p>坂谷権現(栗谷)</p> 
<p>湯山古墳群</p>	<p>約1300年前 奈良時代 (紀元前700年代)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●土製馬は主に奈良時代に、まつり・まじないのために作られたとされる。</li> <li>・多鯰ヶ池は当時は漁業が盛んで、池の霊への奉齋<sup>ほうさい</sup>(神仏をつつしんで祀<sup>まつ</sup>ること)にかかわるものと思われる。</li> <li>●江戸時代の書「因幡民談記」(1622年~1691年)に、今に伝わる大蛇伝説が紹介されていることと、江戸時代寛文年間(1661年~1673年)に作成された</li> </ul>	 <p>長さ: 19.5 cm</p>  <p>小島出土の土製馬</p>

鳥取城下の古地図にこの池の畔に「弁才天社」が書かれており、水神にまつわる信仰があり、池に浮かぶ「小島」に祀られたとも考えられる。

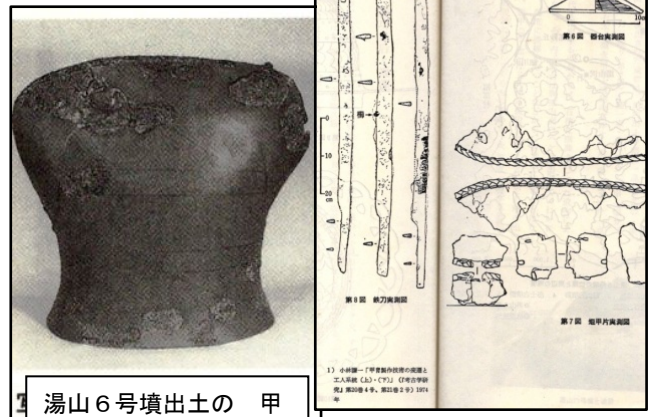


**湯山6号墳**

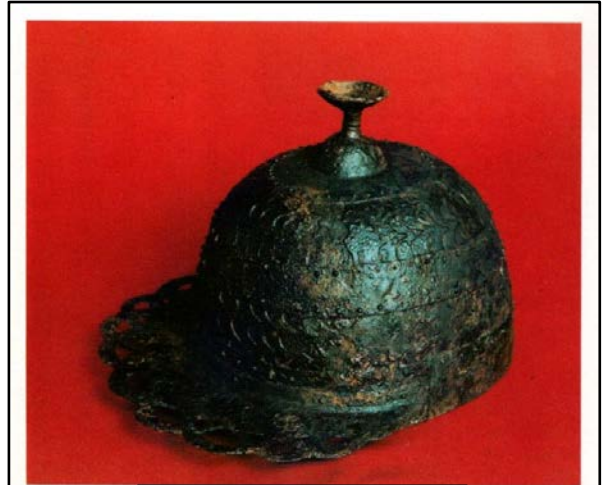
約2500年前  
古墳時代中期  
(紀元前  
400年代)

- ・ <sup>かぶと</sup> 冑<sup>こう</sup> や甲、鉄剣などの武器が発見される。
- ・ 古墳は湯山池に突き出た山湯山の<sup>大谷山</sup> (湯山神社の山) の先端から発見。
- ・ 出土品の製作技術の高さからしえ、当時のふくべの地域で製作したとは考えにくく、朝鮮半島からの伝来か技術を身につけた渡来人の作と思われる。
- ・ 県指定の文化財です。

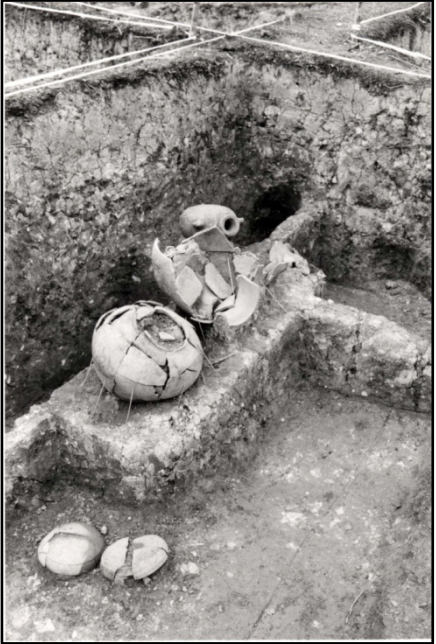
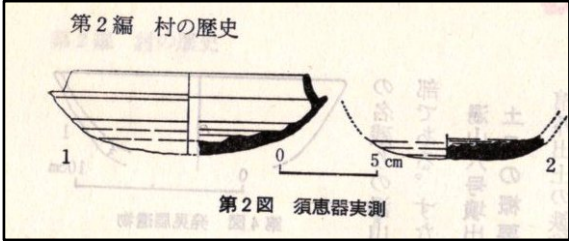

鉄剣 3本



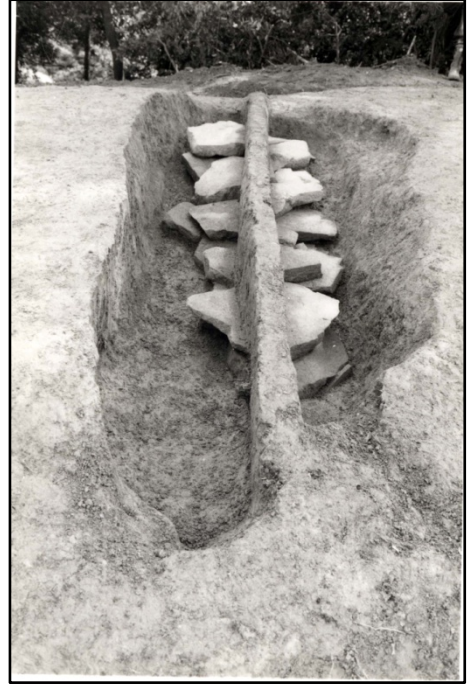
湯山6号墳出土の 甲



湯山6号墳出土の 兜

<p><b>海士古墳群</b></p>	<p>古墳時代 (500年 ~ 700年)</p>	<p>海士古墳の出土品</p>	 
<p><b>高江古墳群</b></p>	<p>古墳時代 (500年 ~ 700年)</p>	<p>高江1号墳石室</p>	

高江3号墳石室



蔵見古墳群

古墳時代前期  
(500年  
～  
700年)

蔵見3号墳は巨石を積んで造られた横穴式石室で古墳時代のお墓です。

日本国内でも例のない貴重な埋蔵物で「鴟尾【しび】付き陶棺」が発見されました。

同時に全長25cm、幅13cm、高さ12cmの「鳥形瓶」と呼ばれる鳥の形をした水差しも見つかりました。

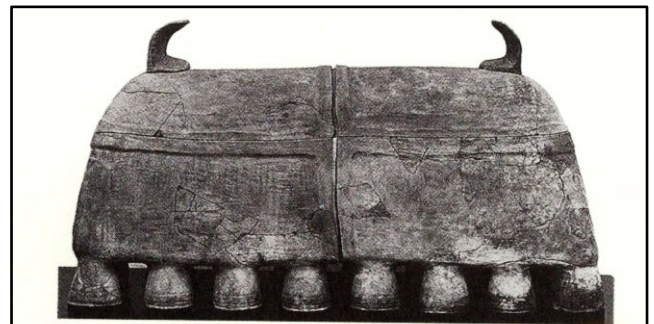


写真13 蔵見3号墳 陶棺

窯で焼いてつくった棺(ひつぎ)。素焼製。岡山県で多く見られるが、鳥取県でも東部を中心に発見されている。だが、鴟尾(しび)をつけたものは全国でもまれにしか見られない。仏教文化と古墳文化の結びつきを具体的に表していて色々考えさせる。



鳥形瓶(蔵見3号墳出土)